滿洲日報

淸曆九月九日 (ひのと、とり)
●新聞代價表 一枚三錢 一ヶ月金六十錢 半ヶ年金三圓四十錢 一ヶ年金六圓五十錢 滿洲各地への配達は郵税一ヶ年不申受
●廣告料 五號活字十九字詰一行一回五十錢 特別廣告は 全
發行所 營口南本街 滿洲日報社 電話 編輯部 一二一 營業部 一一九
遼陽停車場前 滿洲日報社支局
奉天大東門内 滿洲日報社支局
全十間房 滿洲日報社支局
鐵嶺大神廟街 滿洲日報社出張所
公主嶺支那町 滿洲日報社支局
新家屯驛前 滿洲日報社出張所
大連信濃町 滿洲日報社支局
長春城内 滿洲日報社出張所

時刻表 [illegible]

蓋平のペストに就て

滿洲日報

未だ世間の問題となり居らずして而も甚だ寒心すべきものあり、蓋平に於けるペスト即ち之なり、第二面雜報中に記載の如く、該病の爲めに死沒するもの初發以來少くも千を下らずと言ふ、而も這は單に表面に現はれたる數にして其の實數は更に之に幾倍すべし、今春以來僅に數月にして斯る多數の死亡者を出し、之に加ふるに死亡者以外の同病患者を以てすれば、同病の慘害を蒙りたるものは實に其の全人口の幾割を以て數ふべく、而も將來益々傳染傳播の虞ありと云ふに至つては實に寒心の外なし。

内外人民の生命財産に對する爲政者の責務は普通、犯罪の抑壓外患の防止を聯想せしむるに止るも、夫の思慮深き將軍が敵の攻擊よりも寧ろ惡疫傳染病の襲來を怖るゝが如く、爲政者は惡疫傳染病に對し少からざる責務を有するものにして、今日の如く通商交通の盛なる時代に於ては、其の責務は更に緊重を加へ、一般國民の衞生思想の幼稚にして衞生設備の不完全なる國家に於て其の責務緊重の度は更に一段を加ふるもの也。

ペスト流行地たる蓋平の地方官が、巡撫府乃至總督府に對し、如何なる報告をなし居るやは之を詳にせずと雖も、其の防疫方法として、僅かに少數の委員が過般奉天より派遣されたるの外之を聞かざるより觀れば、此等奉天の當局者は蓋平のペストが如何に怖るべきや、其の實狀に就ては之を知悉せざるものゝ如し、又た同地知縣の同病に對する態度よりするも甚だ眞面目を欠けるものゝ如く、又自己の名望位置を顧慮するの念より、所謂臭い物に蓋の主義を取り居るなきを保せず、從て奉天の當局者は蓋平のペストに付きては甚だ其の實狀に暗く其の防疫方法の緩漫なるも一に之に基因すと假定するも、實狀は誠に寒心すべきものにして日々蔓延の實ある上に、防疫委員は少數に過ぎず、而も之と協力して一意防疫の任に當るべき直接の當事者たる知縣は過般も自家に同病死亡者を出せる際、防疫委員の消毒を拒絶したる事あり、其の上今也防疫委員との間に不和を構へ、認眞事に當らず其の結果巡警局すら防疫事務を見る事彼岸の火事を視るが如き態度に出で撿疫員は親戚知人乃至官吏の家に出入せず、患者あるも之を隱匿して告げずと云ふ、官吏既に斯る有樣なればペストの何者にして防疫の何者なるやを解せず、加ふるに種々の迷信を有する人民は自ら進みて豫防の方法を執らざるのみか、或は病患を秘し、或は死者を野外に遺棄し、或は死者あると共に他に移轉移住するが如き、寧ろ其の愚惘然の情に堪へざるものあり。

想ふに適當の防疫方法あるに拘らず、之を施さず、若くは故意に其の反對に出づるは全く蔓延傳播を助勢するものと言ふべく蓋平に於ける實際は即ち之也、斯の如くにして、曠しく時日を經過するに於ては將來の慘害測り知るべからず、考念すれば誠に戰慄に堪へざるものあり、今日未だ他の地方に傳播せる事を聞かざるも、其の實は何處かに病種を播き居るべく、其の表はれざるは一般衞生思想の幼稚にして衞生設備の不完全なるが爲めなるべく、若し實際未だ他に傳播され居らずとするも、今日の如くんば何時何處に發生するも測り知るべからず、誠に氣味の惡しき限りと言ふべし。

斯る次第なれば、淸國當局者たるもの、一日も早く、該地の地方官に適當の命令を發すると共に、臨機應變有ゆる手段に訴へて、其の撲滅を圖るべく、一般の災害を除去すると共に、斯る危險を放任するより起る不面目を避くべきもの也。

吾人は淸國當局者が適當の處置に出づべきを信ぜんと欲すると共に、滿洲に關係を有する各外國の代表者が、此の際淸國當局者に對し相當の助言と助力とを與へ、彼我共通の災禍を防止するに力めん事を望み、殊に吾國の如きは、其の關係最も密接なるを以て、具体的助力即ち撲滅に要する醫員材料等の如きに關して相當の助力を爲し、南滿鐵道の如きは、蓋平其の他の停車場に於ける撿疫、若しくは停車場閉鎖を以て、病疫傳播に對する相當の處置を取らん事を望む。

われ等の反省すべき點

一新聞記者

記者となりしものは已は何の目的を以て斯うしてゐるかと考へたなら頗る思ひ返へさねばなるまい、要するに新聞記者の仕事は決して閑暇な方では無い、寧ろ多忙な方である、しかし、其れだけ忙しいが必竟何事を成しつゝある乎、彼の勞働者が朝から晩まで働いて、而して何日も之といふよい事もなしにゐて、單に雇主の懷を肥やすに止まると同じやうな結果に終りはしない乎、始より衣食の爲めといふならば其れだけだが、自から其れ以上に志を有して居て其志を達するに何もならぬ事をして日を送つて何時の間にか、氣力も衰へて仕舞ふといふやうな事があるとすれば誠に男兒と生まれた甲斐もない事である、て、志を立てたならば何うか其れに到達するやうに務めなければならぬ、單に生命を繼ぐといふ事は犬猫でもする、最初は國家の爲、社會の爲、文明の爲の念を以てゐながら、僅に生命を繼ぐと云ふ事に汲々とする始末になるのは、自から顧みて恥ぢなければならぬ事と思ふ、新聞記者となるものは其邊を慮り、善く自己が神聖の天職に從事して居る事を思はねばならぬ、已れは何の目的を以て新聞に從事するのである乎、單に衣食の爲め乎、別に大なる志ある爲め乎、常に已れの立たむするところを忘れないやうにすることが肝要と思ふ、且、漁市に在るものに其臭を知らずで、總べて習は性となるもので、最初は厭やに感じたものも習と共に感じなくなるは世の常であるから、此邊は新聞記者たらん者が大に注意すべき事と思ふ

善隣時事

▲再び禁烟の上諭　前きに上諭を以て官吏の鴉片を吃する事を禁し六ヶ月の猶豫を與へて必ず之れを斷れすべき旨を宣せられたるが既に半歲を經るも王公大臣中睿親王莊親王及び都御史陸寶忠副都御史陳名侃等の如き積習尚未だ去りがたく因循する所あるに似たり立ろに嚴懲せざるべからず然れとも今に於て速に禁烟を斷行するあらば暫く寬恕すべし又外省文武官の如きも未た實行し得ざる者あるを見れとも玆に法外の寬典を以て猶二ヶ月の延期を與ふべし若し期に至りて尚は斷行し得ざるものあらば假借する所なく法によりて嚴懲すべし云々との頗る寬仁なる上諭を給はりたり

▲張之洞と朝政　過日張中堂兩宮に謁見の際現今の朝政に關し熱烈なる上奏を爲し其要に曰く近來朝政の紛議堪えざるは主として中央政府の樞臣と外省大官の意見相諧はざると樞臣と各部大臣の間親密ならざるとに起因す而して各大官の任免常なく天下の人心をして政府の方針のある所を知り得さらしむ革命を叫ぶ者ある又偶然にあらざる也故に陛下聖慮を茲に留め務めて公道を採らん事を望む云々兩宮頗る之を嘉納せられたり

▲張中堂と新聞條令　或人張之洞に報律の制度如何を問ひたるに張中堂は答へて曰ふ報律を訂せんと欲するには須らく先づ報館優待の章程を議定す可し蓋し義務と權利とは必らず之を兼有せしめざるべからず然る後報館は自ら安じて事に從はん若し僅かに報律を訂し監督管束の用となさば勢ひ必らず將に謂ゆる言論は悉く外人の手を假るに至り華人出名の報館なきに至らん報律あるも徒らに叫ふと雖も奈何ともするなし故に此回報律を訂するは須らく保護を以て目的となさゞる可からず云々

▲駐露公使問題　前に淸國政府は胡惟德の後任として薩海關道を派し駐露公使とすることに決したりしが詎ぞ圖らん駐京露國公使は外部に照會して曰く本國外務省より此回淸國が薩道臺を簡派することに付き前以て通知を爲さず且つ資格甚だ卑しく國體を礙くる所あれば承認し難しとの來電ありと現に政府諸老は取消策を講じつゝある由なるが別に侍郎聯春を任じて駐露公使と爲すべしと

▲清官叙任　本月十日上諭を以て左の任命ありたり

四川建昌道　李經格
郵傳部左參議　蔡乃煌

滿洲百人物

(一三) 朝倉傳次郎

氏は加賀の人、幼にして平井晴次郎氏の玄關に學び、一中より法科大學を經て、所謂ホウ學士なる輩の仲間となれり。

卒業后直ちに鴻池銀行に入る、行主彼れを試錬せんが爲に受附係を命ず、我邦にて法學士の受附は恐らく彼に於て始て之を見たるなり、彼れが唯々として之を快諾し、其職務に忠直なる、行員觀て以て窃に彼を迂愚となす而も彼は一向に平氣なりき。

多くの學士が侮辱に堪え得ずして、相率ゐて去る間に彼の忠實勉勵は依然として變化なし、之を見たる行主重役は彼れなら「大阪商人を相手として前垂仲間たり得べし」となし、擧げて直に係長とし、次で支店長に進め、以て彼の手腕に恃む處頗る重し、彼が今日ある則ち此の辛棒强き自信と堅忍とに基ゐするなからずや。

二億万圓の滿鐵會計は余程確乎せざれば其任に堪えざるべし、後藤總裁一たび彼と相會ふて其人と爲りを嘆稱し薦めて調査役とし、會計の全部を彼に託す、總裁亦明ありと謂ふべし。

缺潰夥しき滿鐵にして一たび主計の綱を緩うせば直ちに土崩瓦解あるのみ、朝倉氏たる者、深く慮かる處なかるべからず。

理想の婦人

黒白郎(寄)

一　寡言は好ましからず多辯なるは絕對的に好まず
二　感情に走らず常識を逸せざるを取る
三　家政に忠實にして餘裕あり夫を補佐して倦まざるもの
四　喜怒哀樂色に表はさず世界的思慮あるもの
五　身を處するに活潑壯快に人をして快く感ぜしむるものされどお轉婆ならぬ事
六　優美なる同情に富めるもの
七　毀譽褒貶に驅られず謙讓の美德を保有するもの
八　經濟に心を用ゐ吝嗇と節儉とを誤解せざるもの
九　人を腦殺し得る麗容は備へずとも交際に巧にして愛嬌あるもの
十　學者ぶり美人ぶり貴婦人ぶるなど「ぶる」ものは非なり要するに「らしく」するは是れ余が理想の婦人

▲日曜文壇▼

日露之役大佐吉岡友愛君陷旅順赴沙河戰時余在青泥窪置酒酣醉賦之送其行而不旬日戰歿頃者探篋底偶獲其稿慨然久之

藤井千山

馬嘶曉霜劍鳴風。六尺雄身輕于蓬。
將軍命維天子命。拔城屠壘豈求功。
今朝鏖殺十萬敵。彈丸貫鐵未傷躬。
髑髏三杯生豪肉。揚鞭更嚮朔北空。
天益寒兮地益險。北斗影暗路不通。
好矣豪骨埋何處。千古長白碧蓊々。

短歌三題

電の人より

歌にして夢と醉との唐の酒情あらばの戀もつ身かな
朝明を何の別れや星の涙露と呼ばれて散りてこぼるゝ
小賢しやその手その口その瞳この詩示して世に何を問ふ

快男兒

第九十回　渡邊默禪

話頭轉つて、其の翌る朝棟庵方を逃のびたるお琴の身は、早くも淺草松淸町なる東本願寺々内の只ある長屋の二階に伴ひ去られ前夜我れを背負ひ出し漢子と對座になつて親しく言葉を交へ　男『エ、お孃樣、こんな薄汚ねえ所にお寢かし申したんで、定めしお氣味が惡うごぜえやしたらう、如何でげす些とはお睡眠なさる事が出來やしたか』と挨拶しながら坐に附たきる漢子、年齡四十ばかりの鼻圖たく眉毛太くして、薄黑き唇より齒の反出てたるを見て快き顏ならねど、肉づきたる頰に絕えず笑の波をそよがすは、夫れと釣合ぬ愛嬌とやいふべく、身には唐棧の小袖に變八端の帶、子持縞の糸織を寢んねこ半纏にして引ツ掛けたり、隅に堆かく積重ねし古葛籠行李などを背にし此方へ向ひて正しく坐れるお琴が　琴『ハイお蔭さまをもちまして、久々で寬々と就眠ました、昨晩からの御親切は、染々と有難う存じますと、靜雅に手を突く　男『何の親切も何もあつたものぢやアごぜえやせん、是れもアノ了伯への面當、貴孃への功德でげすよ、それは爾とお孃樣え、私の身上は得體が知れねえから、定めし變に思ひなさるでせうが、實ア私アね、昨晚一緒に了伯ン許へ押し込ンだ人と心懇い者てげして、職業が輕業師名前が金六ッてえ、ケチな藝人てムえやす、彼の人はおめへさん、以前は並木町でも一トいつて二ト下らねえ立派な商賣エーと、龜……龜……左樣ソノ龜屋の若旦那でげしたが、お爺さんに當る大旦那が了伯に金を貸して、酷え催促をしたのお怨を受ける原因て、一服を盛られてバタバタッと死去ッちまッてからッてえものは、妙に不祥事が續いて、貸した金が倒れる、商賣て損をする、おまけに火事に遇ふ、イヤモウ散々な有樣てげして、間もなく屋敷は人手に渡る、家具はヂリ〳〵バラ〳〵になる、今おやア親類の家に厄介となつて、お傷しい思ひをして居なさるんで　琴『まア何といふ御不幸で……お氣の毒に存じます　金『サアそこで若旦那は、是ツてえのも皆な了伯のお蔭だ、おのれ親の仇、その儘に置くものかつてえな譯になつたんでげす、そこで私ア以前旦那の最負を受けて、始終お出入をしたもンてげすから、涙ながらにソノお話しを爲さる、アヽ無口惜しう御座いませう、エヽ寧その事殺しておしまいなさいやし、私は輕業師の事だから塀を越えたり、家の中へ忍び込むなんぞはお茶の粉だ、手引の役目は此方が引受けやせうと、チャンと相談が定つて、とう〳〵昨夕の樣な一件になツたンで　琴『オヽ左樣で御座いますか、昨晩彼のお方のお話しに、始めて承はりまして驚きましたが、實に呆れた惡人で御座んすのねえ　金『エヽそりやア外見と裏とは大違ひ、强盜から人殺まで行つて來た惡黨醫者てさア、そこで若旦那は貴孃の事を一層心配なすツて金六宜しく賴む、疎匆のない樣勞はつて上げよと被仰つて、昨夜家の門からお歸りになりやしたから、未だ貴孃には染々お眼にも懸らねえが、いづれ其中にお引合せする事にしやせう、そこで昨晚貴孃のお身上は、大略のお話を聞きまして承知しやしたが、私ア是れからソノお許嫁の帶刀樣ッてえ御仁の、生死を能く〳〵聞糺して、突止めた上でお知らせ申しやすから、まア汚ねえ所でも此の家に、二三日腰を下しておゐでなせえ、其中には何も斯も解りやす　琴『ヘイ何分宜しく、それでは誠に恐れ入りますがお世話樣になり序に御面倒を願ひませう、帶刀さへ東京に居りますれば、後で必ず此の御禮を　金『エッ、御禮なんぞを當にして人のお世話をする、そんな卑吝な金六ぢやアごぜえやせん、此頃函館へ脫走した、軍艦にでも乘つた氣でおゐてなさいやし」と語る折りしも、何處より飛來れるものか二階の窓の庇にトンとばかり音したる石礫、金六は俄かに耳を欹て　金『オッ忘れちやッた、階下に未だ用が、おやア……御孃樣御寬りとなさいやし」と立揚り、危うき階梯を下りて臺所口より竊かに家を拔け出で生垣を繞つて寺の墓場へ赴けば、卵塔の蔭よりヒョックリと現れたるは例の龜吉なり　金『イヤア兄哥か先刻から待つてた〳〵　龜『金、如何だ玉は……見たばかりてゾツとしたらう　金『素敵だなア晝見ると近勝りがして猶佳いやア、ヘヽヽア、大變な物を掘り當てたもンだな……。

●我紙は滿洲商業の唯一機關を以て任じ記事精確趣味豐富在滿邦民及び滿洲の事情を知らんと欲する者は一日も我紙を閑却すべからず

東京電報

●大勲位の御贈呈
十月十三日東京發電　東宮御渡韓の際韓國皇帝陛下へ大勲位菊花大綬章を御贈呈の由洩れ承はる

●皇太子殿下の御出發
皇太子殿下には今朝六時半宇品に於て軍艦香取に御座乗仁川に向はせらる

旅順電報

●鎭守府司令長官の歸朝
十月十三日旅順支社特電　橋本鎭守府司令長官は田中副官を随へ本日午后一時薩摩丸にて歸朝の途に就けり

大連電報

●滿鐵規則の修正說
十月十四日大連支社特電　曾て非難の聲高かりし大連土地貸下規則は其規則中何時にても御命令次第返納すべしとの文字あり殊に外人等は此規則を以てして大連に家屋を建築居住するの不安心なるを訴えて止まざりしが中村長官は斷乎として同規則を廢し明日別に規則を發表すへしと

●實業會の陳狀
大連實業會の代表者として中濱淺次郎、木村正平、大塲豊治の三氏は本日中村民政長官を訪問して曾て同會の決議せる衛生組合の件家屋建築規則の件及び車税等に關して陳狀する所ありたり

●日清鐵道の競爭
今回滿鐵が奉天より營口まで豆、豆粕等の運賃を一噸四圓に引下げたるに對し關外鐵道より營口迄の運賃を三圓弱にまで引下げ飽くまでも競爭の態度を取るべく決心せるが如し

●大連民政署長來任
關屋前大連民政署長に代りて着任せる佐藤友熊氏は一昨夜來連昨日旅順へ向ふ

●會計檢査官の來連
會計檢査官森本氏は旅順の檢査を終へ昨日大連へ來れり

●中村長官の旅順行
中村長官本日旅順に向ふ

●大連防穀令の撤去
防穀令に關し清國政府は鑑る所あり大連に於ける防穀令を今日限り撤去すべき旨總税務司より黒澤税關長に通知し來れり

●鹽業重役の出張
滿韓鹽業重役本日貔子窩に向ふ

雜報

●答禮大使の御待遇
再三既記の如く曩に我が帝室より伏見宮博恭王殿下を清國へ御差遣相成りたるに對し答禮大使として貝勒溥倫殿下を來航せしめらるゝ筈にて既に同國より公然通知ありたる由なるが同殿下の渡來は本月下旬にして本邦滯在は約一ヶ月間位なるべしと云ふ猶帝室に於ける接伴等決定せられざるも去三十七年歐洲御巡遊の際御立寄の節と同樣なる御待遇あるべしと云ふ

●間島派員の退撤要求
北京よりの近信によれば外務部は北京駐剳の阿部代理公使に照會し間島は清國の版圖なるを以て同地駐在の日本官憲は速に撤退せられん事を望むとの要求を爲したりと云ふ

●巡撫參賛の更動說
近來又々奉天官塲に浮說を立つるものあり唐巡撫は中央政府に內用せられ民政部侍郎趙秉鈞は新たに奉天巡撫に任せらるべし又曰ふ過日徐總督と共に上京せる東三省參賛錢能訓は才能卓越內用に堪ふるを以て政府の樞要地位に推薦せられたる由なれば參賛の職亦た新たに人才を迎ふべし云々耳の眞偽は未た俄かに信ずべからざれども暫らく記して此後の成行を見ん

●大島都督の談
都督府と滿鐵との關係、都督府官制改正等に關し仝都督が東京にて某新聞記者に語れる所左の如し

▲滿鐵との關係　昨今都督府と滿鉄會社との間に衝突ある如く傳ふるものあれど盡く事實に反せり元來滿鐵會社は命令條欵にある如く都督府監督の下に立つべきものにて兩者の關係は法律上明確に規定せられあるを以て互に其の權限を超越して他の範圍を侵食するが如きは萬々あるべからざる譯なり▲世間或は後藤總裁が都督府の顧問たり中村副總裁が都督府民政長官を兼ね居るよりして彼我の權限を云々すれども本來法律上の規定は明確にして官吏の任命は時と場合に因るものなれば是れが爲に決して彼我の權限を云々すべきにあらず▲石塚民政長官辭職の後は之れに代るべき適任者を得ると容易ならざりし故一時中村氏を以て其の後任と爲したるも是れ亦何時更迭せんも知るべからず又先般辭職したる關屋民政部長等の進退に就ても內部に不穩の事情を含み居る如く傳ふるものありしも彼等は豫てより地方事務官を希望し居り其の機會を得て辭任したるに外ならず▲要するに都督府と滿鐵との間には昨今何等の衝突無く各々其權限に遵ふて平穩に事務を進捗しつゝあり

▲官制改正の必要　予が今回の上京は第一滿洲經營に對する統一の方針を定めんが爲めなり前述の如く滿鐵は都督府の監督內に在るを以て万事都督府と一致の行動を取り得べきも獨り彼の領事に至ては官制上都督府の外に立ち全く獨立の行動を爲し得べき權能あるを以て都督府と領事館と八間往々意見の衝突を來し彼の警察官使用事件の如き失体を來たすを少しとせず▲此の兩者の衝突は獨り我が居留民をして適從する所を知らざらしむるのみならず外國に對し日本政令の無統を示し國家の体面を毀傷すると少からず故に予は今回上京中此の問題を解決し更に事情の變遷及び內外の必要に照して都督府官制に多少の改正を行ひ且つ豫算に就いても政府と交涉する所あらんと欲す▲然し決して領事館と衝突反目するとを云ふに在らず滿洲經營に對する統一的實効を擧げんと欲するに外ならざるのみ

▲乞ふ之を總裁に問へ　滿洲幣制統一に對し大藏省は一種の主張を有し居れども予は此の際特更に軍票を回收するの必要を認めず又俄に金銀本位を定むるの必要を發見せず有体に言へば等の問題は予等の理解に適せざるを以て詳細は後藤總裁に尋ねられたし云々

●滿洲の貨幣問題
滿洲に於ては尙軍票の流通するあり正金銀行銀券引替の紙幣あり日本銀行の兌換券流通するあり流通上頗る亂雜の觀を呈し而して逐日我が國人の往來頻繁となれると貿易の盛大に赴くとの二原因よりして日本銀行の兌換券の流通增加するは勢ひ然らしむる所にして現に安東縣の如きは流通貨幣の十中八九は日銀の兌換券にして大連も亦頗る日兌換券大に增加し來れる如き有樣なれば奉天其の他日本人の居住して商業を營む所にあつても亦日に增し日銀兌換券の增加は免るべからざらん然るに本國に在りて金本位兌換券の使用に馴れたる者が時々相塲の變動ある銀本位を使用するは大に不便を感ずるは明かなるも去りとて我か政府は今日の處後藤滿鐵總裁の意見を容れて金本位に改むるにも決し居らず目下只管正金銀行側の研究結果を待ちつゝありと某當局は語れり（阪朝）

●蓋平のペスト
……新患者日に三十四名……

蓋平のペストが爾來其の勢を逞くしつゝある趣は既に報じたる所なるが今接手せる同地よりの報道に據るに其の後勢益々猖獗にして一日平均三十名の新患者を出し、營兵內には既に四五十名の死者あり其の他知縣衙門典史訓導總局所等何れも患者死者を出さゞるなき有樣にて勢實に猛烈と云ふの外なき次第なるに拘らず同地知縣は何故にや兎角防疫を無視するの傾ありて目下同知縣と防疫所との間頗る圓滑を欠き從て巡警局の如きも防疫方法に關して何等の助力をも爲さず斯る有樣なればペストは益々其の勢を逞くし初發以來の死亡者を計算すれば實に一千名以上の多きに上り今若し斷然たる所置を執らずして今日の有樣を以て明春に至らば傳染力は益々強く其の後の成行殆んど推測し難きものあり然れども這は單に杞憂にあらずして今日の狀態にては到底撲滅の望なしといふは目下患者を發見する唯一の方法たる戸口檢查は各區にて行へるも其の執行者は支那人の事なれば親戚知人及び官吏等の家には一切立入せず又患者ある事を知るも秘して告げずされば防疫所は一日二三の患者の報告を受くるに過ぎずして隱れたる患者の死歿するもの日々頻々として之あり而も之等は麻袋に容れ夜中私かに持出して野外に捨つると云ふ始末にして其の亂暴なる名狀すべからず其の上患者を出せる家は早速他に移轉し或は瀛車便に依りて他の地方に移住するもの少からず斯かる有樣なれば此の際斷然たる處置を取るにあらざれば到底病根を撲滅する能はざる上他の地方に傳播さるゝ事容易なるべしと云ふ

社告
豫て東京へ注文し置き候新式印刷器械は數日前到着昨日据付を終へ職場も遺憾なく手揃ひと相成候に就ては本日より第二版を發行し營口一圓愛讀者多年の厚顧に酬ゆることゝ致候此段不取敢及謹告候敬具

十月十四日　滿洲日報社

●京義線の活動期
安東縣に出張所を設置し大阪にも出張所を特設し京義線經營策が今や三國に連環して眼覺しき働き振りなるに加へ管理局は松庫洋行に運賃三割引を特約し柞蠶及柞蠶紙は船舶の運賃と同價にまで低減すべく松庫洋行は安東發展の爲め奮つて此特權を安東市民に提供すべしと云へば仝市民中の貿易業者は管理局と松庫洋行との好意を諒とし結氷期中は盛んに京義線を利用すべく且つ管理局に於て兼二浦に施設すべき準備は結氷中に於ける是等の活動をして遺憾なからしむるに充分なるべしといふ

●滿鐵の運賃引下
昨紙欄外大連電報の報ぜしが如く南滿鐵道會社は營口大連に到着する豆豆粕豆油等の運賃を引下ぐる事となりたるが從來豆豆粕等を以て二級品と同一の運賃を課しつゝありし事に關しては世間往々否議を爲すものありしが爲め滿鉄に於ても之につき種々調査を試みたる結果此等諸品の運賃引下を爲すべき必要を感じ昌圖外十一驛より當地及び大連に輸送し來るものにつき愈々來る十五日より實行する事となせり尚ほ當業商人等の言を聞くに目下豆類の着荷漸く多からんとする際に當り滿鐵の運賃引下げは河北鉄道に對抗する必要の手段なり然らずんば當地及び大連の豆豆粕の取引に少なからざる惡影響を殘す者なりと今左に引下げ運賃を示さん

發驛	大連着（一噸に付）	營口着
（湯崗子、鞍山站、遼陽、[illegible]子、煙臺、蘇家屯）	四、五〇	—
奉天	四、五〇〇	四、〇〇〇
虎石臺	五、一〇〇	四、七五〇
新臺子	五、七〇〇	五、五〇〇
鐵嶺	六、二五〇	六、二五〇
開原	七、二二五	七、二二五
昌圖	八、二二五	八、二二五

之れに依つて見れは奉天より大連に來るものは從來に比し一圓七十五錢を減じ營口に着するものは一圓六十錢を減し鐵嶺より太連及び營口着は一圓十五錢昌圖より右兩地着は二十一錢を輕減せり

●遼陽郵電爲替貯金受拂高
先月中遼陽郵便電信支局及同城內出張所にて取扱たる爲替貯金の受拂高左の如し

支局取扱	金額	口數
爲替振込高	四一、六三八、七五五厘	一、八七五口
仝上拂渡高	一四、三八三、四二九	五八二
貯金預高	一五、九〇八、四七二	一、二六四
仝拂戻高	一一、九四九、四七一	五二七
郵便取立金	二四、二八五、〇五〇	二三二
出張所取扱		
爲替振込高	二〇、一二〇、二六九	七六三
仝拂渡高	二九、六一五、三九〇	九九
貯金預高	二七、七五一、九八〇	一〇四
仝拂戻高	二八、二〇三、〇九七	七八
郵便取立金	一八、九八四、〇〇〇	一一七

●關東州石材採掘規則
去十二日附にて發表せられたる同規則を摘錄すれば左の如し

第一條　關東州內に於て石材の採掘を爲さむとする者は本令に依り所轄民政署長の許可を受くべし

第二條　石材の採掘を爲さむとする者は其の本人又は代理人か關東州內に住居することを要す但し清人に在ては關東州內に事務所を有し又は代表者か住所を有することを要す

第三條　營業の爲め石材の採掘を爲さむとする者は別記書式に準したる書面に各事業設計明細書、借區の位置、形狀及坪數を記載せる圖面を添へ所轄民政署長に願出づへし

借區地か他人の採掘地と隣接せるときは六間以上の間隔を存すへし

第四條　城堡、軍港、要港、火藥庫、火藥製造所及彈藥庫の周圍三百間以內の場所並要塞地帶內は石材の採掘を爲し又は使用することを得す但所轄官憲の許可を得たるときは此の限に在らす

第五條　鐵道、公道、社寺境內、公園及墓地內に於て石材の採掘を爲すことを得す但し官の許可及關係人の承諾を得たるときは此の限に在らす

第六條　官有地に於て石材採掘を爲す者は土地使用料として百坪に付一箇年金六十錢を納むへし但し百坪に滿たさるときと雖百坪として計算す

前項の使用料は事業設計書に依り豫定採掘坪數に對する一箇年分の金額を納入すへし（七條以下畧）

●黒龍江河船艦隊
露國新聞の報ずる所に依るに同國海軍省にてはバルチック造船所に黒龍江に泛ぶべき八隻の河船砲艦の製造方を注文し竣工の上は分解したるまゝ鐵道にて黒龍江に輸送し同所にて組み立つべく砲艦の吃水は四呎より深からざる計畫にて各艦石油を燃料とするゼヂリ式の運轉器械を備へ此砲艦を以て黒龍江沿岸の防備に充つべしと云へり

●中央試驗所規定制定
關東都督府中央試驗所規程は十二日附にて左の如く制定せられたり

第一條　關東都督府に中央試驗所を置き產業工藝及衛生上の監定及試驗に關する事項を掌らしむ

第二條　關東都督府中央試驗所に左の職員を置く

所長　技術員　事務員

第三條　所長は民政長官の命を受け所中全般の事務を掌理し所員を指揮監督す

第四條　技術員は所長の指揮を承け技術に從事す

第五條　事務員は所長の指揮を承け庶務及會計に從事す

●遼陽居住者地方別
去月中仝當鐵道附屬地に來住せる內地人の男女別數及び之れを地方別にすれば左の如し

府縣	男	女
東京府	九	四
福岡縣	二	七
栃木縣	一	〇
廣島縣	一	八
滋賀縣	三	一
高知縣	〇	一
鳥取縣	一	〇
愛媛縣	一	四
長野縣	一	〇
群馬縣	一	〇
佐賀縣	四	一
愛知縣	三	二
石川縣	一	一
岩手縣	一	〇
大阪府	三	六
靜岡縣	三	〇
山口縣	五	五
長崎縣	四	六
熊本縣	三	二
兵庫縣	一	八
大分縣	六	三
德島縣	五	〇
宮崎縣	二	四
新潟縣	三	〇
香川縣	一	二
鹿兒島縣	一	〇
島根縣	一	一
和歌山縣	〇	二

合計百三十六人　內　男六十七人　女六十九人

●玉轉し問題の落着
數月前奉天に於て我が玉轉業者と支那巡捕との間に衝突を起し巡捕等は大擧して玉轉塲を襲擊し家屋を破壞し邦人を負傷せしめたりしため日清間の交涉問題を釀し我が奉天總領事より支那憲官に損害の賠償を請求したる事は當時既に報導せし事なるが今回愈々該問題は落着し賠償金四百元を支那官憲より送り來り暴行を爲したる巡捕等は免職せられたり尚ほ日本領事館は風紀取締上玉轉業を以て漸次に停止する方法を取れりと云ふ

●稅關と小包郵便
去る七月稅關開設以來小包郵便に課稅する事となり爲に約一週間の延着するは敢て珍しき事ならず然るに迅速を尙ぶ小包郵便に託する商品は往々にして十日以上も延着せる爲め慮外の損害を蒙むる例勘からず發送者及荷受者は充分此點に注意を爲すを要するも稅關當事者も亦大に反省ありたきものなり

●巡警局の日本語教授
十間房事件以來清國當局者が將來日清官民間に無用の衝突を惹起せざる一方法として巡警をして日本語を修得せしめ以て意思の疏通を圖らしめんとするの計畫を立てたる趣は當時報ずる所の如くなるが其の後右の計畫は實施され各分局に於て毎日午前十時より十一時半まで午後二時より三時半まで三十名內外を一組とし交番に日本語の教授をなしつゝあり

●營口婦人會例會
當地舊市街本願寺出張所內の營口佛教婦人會にては本日午後一時より本月の例會を開會し寺本布敎師より法話あるべく因に會員は會則に依りて質素の服裝にて午後一時の定刻に後れざる樣出席せられたしとの事なり

●奉天電話の增架
奉天に於ける電話は其筋にても其增加を計畫し加入者を募集せしは久しき以前なりしが其申込者甚だ多きにも拘はらず未だ其架設工事に着手せざるが當局者の談に據れば該增設工事は其材料不着の爲め未だ起工するに至らず其材料中米國に注文したるものは未だ少しも到着せざる由にて右は本國より都督府郵便電信局に回送し仝局より當地に送致するものなれば其材料の到着し全部揃ふ迄には多少の日子を要すべしとされば當局にても電話材料全部到着の上は直に工事に着手し一日も早く公衆の利益を計る筈なりと

●洮南府知府の歸任
前々月中より洮南府一帶の交通機關道路の修理及び蒙古政務に關し東三省督撫として來奉中なりし洮南府知府孫保縉は公事漸く完り今日歸任の途につけりと

●正金の安東縣出張所
目下大和橋通りに新築中なる正金銀行出張所本月中には階下竣工の筈につき十一月一日より新築の場所に移轉開業の筈

●秋季旅行
窪田領事其他在留知名の士十餘名は千山地方に秋季旅行を試みん爲め今夕の列車にて發程する由

筆墨魔
大石橋居留民會解散式へ大石橋區長孫、金家屯知縣候補者である柳なんといふ清人中の名望家が列席して我が官民と獻酬歡語して居たのは何んとなく日清の輯睦が餘程密接のやうに見えて愉快に感じた▲茶席て路營口驛長と島村大石橋驛長とが蟠龍山へ營口民の引付方を說いて居たのを聞いたが流石はお商賣柄なか〳〵ぬかりなしだ▲大石橋驛長室には至誠感神といふ扁額か掛けてあるのは島村氏の理想なるべく黒版に事實は最良の雄辯也と書いてあるのは以て島村驛長の說明のやうに思つた▲聞けば工城、兼田、竹浦の各助役も万事につけ島村式で旅客の滿足此上なしだが荷物係の黒木、高橋諸氏も他に多く見ぬ勤勉家であるらしく見受けた▲解散式が終つて主客何れも千鳥足の頃梅の家の板塲某といふ野郎が罪も咎もない支那商人の荷物を蹴飛ばし辨髪を引ツ捉え散々の目にあはした不都合な奴だと思つてると殆ど通りあはせた倉岡警部が此野郎をしたゝかに懲して支那人へは損害高を申出よと諭してた▲倉岡君の其時の言分が非常に氣に入つてが之を紹介する餘白のないのは殘念である▲本社出張の兩名は當日今木守備隊長と田中警務署長とを訪問して敬意を表したが兩君共極めて摯實で謙讓で而して尊大ぶらぬ人であつて官尊の滿洲では珍らしいと思つた

●滿洲外交獨立說
後藤總裁と大島都督と相次て入京したるに就き世間種々の說を爲すものあれども都督……

……ゝあるものと見做すべく而て兩氏今回上京用向きの主題に廣く之を言へば滿洲經營の統一、狹く之を言へば滿洲に於る外交の……

……料其他一切無料にて一般の觀覽に供し唯特志者より随意寄附を仰ぎ其收益を以て一は料理店組合の缺損を滿たし一は內地水害地……

地方（きた、〆子、一筆）▲京人形　舞、甚五郎（金城舘金吾）太夫、（金三）地方（金太郎等）▲狂亂　舞（日本舘手遊お駒）地方、吉勇、紬子、下方（米子、お龍）▲ゑびら源太、舞、梅太（祇園屋千代）をむろ（いさ）▲隅田山きかん（金城舘金蝶）おくに（金一）殿衛之助（金花）法界坊（金二）▲新作吉原揚屋段　大酒と濃守（日本舘三好）堅木長兵

……聞を盜み取りて取押へられたるは春風永と云ふチャン泥又其翌夜新市街山本洋行の表門の明きたるに乘じて衣類十二点此代價五……

……新市街滿月樓にて藝妓を擧げ盛に遊興して後自分は右醫院の醫員なりと告げて歸りたれは同樓にては其費用金十二圓八十五錢を……せられたしとの事なり

◎優遇、設備、安値、資格、客筋の總てに於て第一等の好評を博す……

裁の新聞紙上に於ける談話中にも見えたる如くにして總裁と都督は寧ろ提携一致しつ

●營口座の慈善演藝會　當地營口座にて今明兩晩五時より慈善演藝會を催す由入場

▲須磨の平　舞松風（金）▲筑摩川、三味線（祇園閣〆子、〆太）雨（金）、金子、地方（金太郎、金勝等）下方（金香）▲黑髮　舞（日本舞手遊）お駒、杵勇（吉勇、お龍、米子等）▲お光狂亂　舞　祇園閣奴〆

●チャン泥一束　去る十一日夜新市街東清通運總司に忍込みて支那紙六箇此代價十八

●醫員の無錢遊興　當地日本醫院中村方國弘泰藏は去る十日午后三時より同九時まで

一等貸座敷　芙蓉樓（電話二九）

小説　横戀慕（二）　川合柳葉作

「お孃樣！村田樣が被在しやいましてございます、早くお出迎ひ遊ばしませ」

と、令孃智惠子の室にしらせに來たは召使の貞といふ女で豐容の憎氣のない顏、玆年十七であるが、詞こそ稍東京化して居るけれど、どこ迄も田舍氣質の淳朴な女である

智惠子は讀みかけた書籍を廢めて此方を振向き、

「然う、お單身で？」

「はい、お單身で被在しやいますよ、唯今急いでおしらせ申しに參りました。早くお出迎ひ遊ばしませ、遲くなるとお間に合ひませんでございますよ」

平常から令孃に言附かつて居たのであらうさも忠義顏である

「然うそれは能くしらして下れたのね、必然お禮を進げるよ」

「どう致して………」

とは云つたが、其の嬉しさは、顏色にも分るのである。

智惠子はツと起つて衣紋を繕ひ了ると、裾捌嫺かに玄關の方に往つた、召使は其の後姿を見送りながら。

「村田樣も御立派だがお孃樣のお美しい事旋て御夫婦にお成り遊ばしたらそれこそ内裏雛樣のやうだらう」

と、獨語ちつゝ女中部屋の方に去つた

智惠子が玄關に出た時は、村田が丁度玄關前に進んだ時であつた、見れば大島紬の綿入に同じ羽織を着て雪なす扱帶をキリヽと卷き、床しくも手には室咲の花の枝を持つてゐる。平常も洋裝ばかり見馴れて居る智惠子の眼には一段の風情を覺えて瓣の如き唇に笑を溢し

「まあ能く被在しやいましたこと、さあどうぞ此方へ」

「通つてもお差閊はありませんか」

「はい、何も差閊などはございません、どうぞ………」

云ひつゝ自ら先に已が室へと案内した。

この智惠子といふは、海軍中將男爵鳥海重輝の令孃で玆年二十歲の春を迎へ、其の容貌の美しさは廣い東都で何處に出ても、千万人の眼は齊しく令孃の上に集り、中には鳥海家の門前迄後を尾ける青年紳士もある程である、瘦身の背のすらりとした色の白い、曲線美の整つた、品位の宜い格好で就中他人の眼を引くは黑ずんだ長い睫毛に蔽はれた眼と、名工の手に成つたかと思はるゝ小鼻の格好の宜い鼻と、締り過ぎた程の口元に得ならぬ愛嬌を示して居るとである。頭髮は元祿の昔を偲ばせる迄鬢のふくれた、髱の品の宜い束髮に結ふて、衣類は平常も絹地の日本服であるが能く似合ふと云ふので時折華美な洋裝をなすこともある性質は至つて穎敏で活潑で、一旦斯うと思ひ込んだ事は、何處迄も行り貫くといふ勝氣もの、然うかといつて當時の海老茶式部の如く生意氣な樣子は露程もなく、如何にも令孃らしくて、物の同情が深くて、例へば寒梅の薰床しき中に凜乎とした氣風のあるが如くである。教育は其曾て東京女學院に在る頃、院内の才媛といはれた程で一昨年の春卒業の後は、さる外國人に就きて語學研究の傍ら茶の湯生花なぞを稽古中である。又此の村田といふは名を誠一といつて海軍大尉である、女にしても見まほしき程の好男子で、鼻の下だけに俗に才子髭といふ餘り長くない髭を延ばして居るが、顏の優しいに似ず、心は鬼をも挫かんばかり、げに拔山蓋世とはかゝる人をいふのであらう、世才に長けて、寡言で、しかも卒といふ場合には流暢な辯で滔々と談論をする、學術は兵學校時代から始終優等の成績を占めて、去年の春海軍大學校卒業の後、拔擢されて現に海軍軍令部の參謀となつて勤務して居るが青年士官中の敏腕家として囑望されて居る。

誠一の父も海軍中將で男爵であつたのだが一昨年の桐の葉の落初むる頃、胃癌を病んで迷界の人となつた故、今は父の後を襲いで男爵家の主人である。

鳥海中將と誠一の亡父とは爾汝の親友であつた故、亡父の世に在る頃より誠一を非常に愛して、其の死後は殆んど吾子の如く一層愛して居つた。其れ此れの關係より遂に智惠子と結婚する約束は整つたのである。

●故一位局御性行（三）

局の御性質は至つて嚴格にて侍女等の振舞にして禮に協ざるものあれば一々之を正して許す事なけれど而も下の者には慈悲心深く種々細かな事にも必付かれ一度召使ひたる者は後々迄も末永く世話され現に昨年身歿りたる今上皇帝陛下第一の御乳の人なりし伏屋みの子の如き十八歲の時より八十餘りになるまで局にかしづき第二の御乳の人なりし入谷容子（八四）も伏屋みの子の娘なる法げん子も小田切との子も老女豐島事石原豐子も皆二十餘年かしづき居るを見ても如何に下々に對して情をかけらるゝかが察するに餘りあり平常の御付は女は老女豐島を頭に祐筆一人、吳服係二人、お側付三人、御膳係一人なるが何れも局のお情深さに感泣し居れり、前記の如く御食物には別に好嫌なけれど御精進勝なれば當世風の食物を好まれず重に昔風のものを好まれ娛樂としては能樂琵琶杯を好まれ又歌道に堪能に、筆蹟は維新前幕府の迫害に遇ひて三年間許座敷牢に幽閉せられたる際唯習字のみをなして日を送られたる位なれば實に稀に見る能書なり、昨年御母愛子刀自御病の時は寢食を忘れ御側に付切りにて看護せられ又侍者に對しても頗る篤く殊に家扶石山友誠（六〇）侍女石原豐子（五一）は頗る信任を被り此人等が病氣に罹るゝ時の如き親ら枕邊に坐して藥餌を與へられたる程なれば何れも御仁德篤きに感佩せぬものなしと云ふ今月は京都に赴かれ孝明天皇の御陵に參拜せらるゝ筈にて數月前より其準備中なりしが遂に薨去されたるは如何許りか御遺憾の事なりしならん

●營口に入るの記（八）

支局には丁度山田君が南下し來つて居るに會し種々厄介になつた。斯くて停まること一日、塵牛君は僕の處世的先輩であるが大連に就いては觀察が仲々精透して居る。僕を誘ふて此處彼處と市中を案内し、我鄕の先輩水野吉太郎、中野寅次郎の諸氏と會するを得、此諸氏よりは殊に厚情に預かつた事を謝するのである。

此行最も急を要する僕は、右の諸氏より今晩と强ひらるゝを無理に振り拂ひ、六時の列車に投じて營口に向ふたのである。就中神戶より僕が知巳として厚情を送つて呉れたのは滿鐵の足立君、多忙の身にも不係態々停車場迄來られたは寔とに感謝の外は無い。而して大石橋ては又た同鄕の驛長島村長衛君の好意に送られ八時餘分牛家屯に着し、土居君の水先案内を忝ふして、漸やく先づ無恙に營口に入るを得たのである

倩て僕は是に於て、這の一篇が最終の一篇である緣を告白して、爰に讀者に深く謝せねばならぬ一事がある。と云ふのは元來此記に僕の哲學的而して純文學的立場から粗笨乍らも聊か椽大の筆を奮ふりと思つて居たのか多少意に充たざる故障が惹り、已むなく斯の如き龍頭蛇尾の怪物となり了した、讀者に對しては返す〳〵も氣の毒であるが、而し又た他の方面よりして、日を換へ奇譚を語るの機會があるだらうと察する是より僕は次なる藝當に移つて讀者と新たに相見ゆる緣と爲やう。（完）

大陸スケッチ

一日泰東公司の工場を視に行つて還るさ船て遼河を下つた、船の中は僕と他に支那人が四人、一人は老人て殘る三人は未だ三十を越えぬ青年てある。

老人の先生例の大きな煙管て吸ふの吸はぬのつて切りに僕に煙を吐き掛ける、夫れか煙草嫌の僕の前に座り込んで而も風上だから遣り切れない、煙に捲れ丸とは此事だと考へた。

上陸する時十錢やつたら少いから上げぬと言つて船頭を始め都合五人の者共が僕の前に立塞がつて大に迫害する。

僕は急ぐものだから五錢銀貨を投げて遣つたら各々持つて居る拳螺を收めた。

僕は可笑を耐へて上つたところ其處には一人野糞に余念の無い人が居た。（留川）

●好角舊話（五）　扶桑生（寄）

▲若島と云へば大阪横綱の若島が相撲上手な事は既に定評があるので今更彼此云ふにも及ばぬが、彼の師匠先代の若島久五郎も仲々巧者であつた、後に楯甲と改名して矢張梅ケ谷と對峙して西の大關を張つて居る頃、或る場所に東の關脇司天龍と顏が合つた、司天は當時日の出の新進、楯は稍老ロなので此勝負は司天七分楯三分だと一般の看客は許して居たが、立合て見たらドウシテ立上りに楯は司天の前袋を右手にて引摑み、キリ〳〵キリ〳〵と引廻したる上、土俵の中央に投げ飛して案外の番狂せを演じた事がある、此れだから相撲見物は容易に止められぬ事になるのだ、併し敵手の司天龍も仲々好力士であつた、大鳴門に成りて大關の地位は短期であつたけれ共兎に角彼と劍山と輛の平とは梅ケ谷門下の三傑であつたのだ、彼は生國淡路に居た頃から宮相撲てはイツも大關し近所の素人力士中には彼に楯突くものは無つたのである

▲暮水君の語られた達の矢彼も相撲は上手力量はあり男振は好し實に立派な力士てあつた、併し彼の最も强かつたのは東京に來てからよりも寧ろ其以前彼が一の矢と稱して、相生と兩關て關西を巡業して居た時分だ後年、阪の西の大關に成つか追手風など共頃元氣ではあつたけれ共、一の矢に對してはイツモ勝身が無つた

●慈善相撲の勝負　慈善興行のこと故力士に至るまで慈善心を發揮し實に美事なる勝負を取りたり左倉川今錦は今二本差に寄を左倉對へ〆を突出て今の勝▲手柄山大碇は右四ツ手柄の寄を碇對へ碇寄返さんとするを手柄素早二本差碇の上手投手柄巧に殘りトケテ左四ツ碇寄鼻ト手投にて手柄の勝▲高根松綾川綾人氣力士の事なれば綾土俵に上るや綾の呼聲高し立合綾烈しく突貫對るをヘタキ込て綾の勝▲ト綠有知山は本日中の好取組の事なれば双方土俵に現れてや滿場破るか如くなり氣合モロ共立上る有の突手烈しくして綠エタリとハタキ込防ぎ綠早素く敵の右手をとり左よりのと割掛けしも殘りトケて右四ツ有の寄み綠上手投打有下手投双方投を打合有一氣に寄切らんとするを綠の上手投有の下手投フミ切同時に付勝負なし行司木村寅之助四十八の手摑を口上し預となる▲琴ノ浦鳴戶岩は右四ツ寄切て琴ノ勝▲中入後荒手と及び附五人拔勝力士は小綠鳴戶荒▲鳳加古川は鳳左差加古川泉川にキメ出さんとす鳳對へ鳳ゝ寄切らんとするを加古土俵際對へるを鳳渡込しも加古の殘るをスカサスモタレ込て鳳の勝▲朝日潟いは左四ツ双方烈しくモミ合ひ身朝日對へ寄切て勝▲西昇大林は立上るや西素早左差林强引の泉川西殘り西の寄み林小手投打双方烈しく投打合中入后西一氣に寄出さんとするを林の小手投打時西の腰うくを林すかさず突切て勝▲千秋樂日出度打出午后十時

吳服　太物　洋反物　チール類　メリヤス　綿花　其他一式

冬物荷揃

大連市浪速町　塩久吳服店　（電話二二三番）

●滿洲のちり

●安東　韓國龍川郡楊西面春山は去月中旬頃十人位ならでは持ち切れぬ大錨を何者かに盜まれ新義州警察署へ屆出でたれば犯人搜索中四番通七丁目木谷吉次郎方豐田喜平は嫌疑犯人として引致せられたるが撰りに撰つて重いものを盜みしものかな▲大連●　西通り三田尻方の酌婦合田チヨノは被誘拐同樣にて來連し酌婦を營み居たるが爲め鄕里廣島縣三原町の母親は之れを案じて發狂せしかば千代野は警務課の說諭を受け廢業して歸國の途に就きたり▲遼陽●　西門外警務署向ひ山下德太郎方雇人郡山彌太郎と島内少佐の馬丁堤丑之助は外二名の知人と連れ立ち料理店松花亭にて小酌を催し居たりしが仕拂の事より右兩人間に口論となり遂に丑之助は彌太郎目かけて吸物椀を投げ付け前額部に負傷せしめたるを以て彌太郎の訴により警務署にては直ちに丑之助を引致取調べたるも本人の身分軍屬なるため書類と共に憲兵分隊へ引渡したり▲奉天●　謀殺犯人妙法寺金五郎は曩に長崎重罪裁判に移されしが去る四日無事引渡を了し護送の爲め同地に赴きたる荻原巡査は一昨日歸署せり又十間房毆打致死犯人黑柳小入は長崎重罪裁判に於て輕懲役六ケ年に處られ控訴せしも棄却せられ此程服役せり

百花園

●旅順●　野村樓は轉々三轉して今の乃木町三丁目の露國所有にかゝる宏壯なる建物を借受け、見るからに玄關いかめしく官衙の入口にも髣髴たり、一時は火の消えたる如く寂寞の姿なりしが近來多數の人類學標本を輸入したると共に醉客亦蒐來せり▲蜂吉は海に千年山に千年といふ古狐で氣の利いた化物、年は二八の花盛りも二昔前而しお世辭を振くので客はいづれも涎を流すげな▲梅八は身の丈六尺八寸二反の反物で衣服が一枚と前掛位は取れるといふ不德用向の女であるが口八丁手八丁世帶を持たせば金を伸ばす事請合▲力松本家は讚岐の高松市千金丹の本舖でもあるまいが眼の丸きこと千金丹の如く旅順三眼玉の一は此妓てゴザイ而し腕もあり愛嬌もあり關係者も多く有る▲奴は大阪島の内にキヤクと生れて七ロたゝぬ内に舞の稽古したは何うやら嘘らしいが關西の藝者としては見對へがあるやうおや▲千香はバツテンの本場にして少しの教育もあり中々面黑い客の機嫌氣褄を取る事尤も妙▲小圓は年に似合ぬ莫連者、滿韓地方を股に掛け近頃安東縣より流れて旅順口に着したる豪のもの▲小〆は樓中一二を爭ふ別品なれど勸めが過ると撥外れますぞ▲梅花は流石雪國に生れた丈あつて活潑もの劍舞は尤も得意で海陸軍の關係筋は梅花ならでは夜が明けぬと▲小松は樓中の美人なれども何だか感心せず別段美人を鼻にかけて居る譯でもあるまいが愛嬌に乏しい其外雛玉、若蝶あれども皆客癲癇の稱あるのみ

諸國物語

●鹿兒嶋縣人の親睦會　去る十一日午後六時鐵嶺西門外万安樓に於て鹿兒島縣人榊増介小原甚五郎野村龍次郎川上淨介寺山嘉之助岩崎清太郎の諸氏發起人となり今回鐵嶺屯の軍隊引上中にある同縣人東鄕大佐其他の送別を兼ねたる親睦會を開催せり會する者凡そ四十名席定り川上氏起て開會の旨趣を述べ其他數處の演說あり式終りて紅裙杯盤の間を周旋し和氣藹然として互に歡を盡し解散せしは恰も午后十一時なりと

▲擧動不審の廉を以て大阪九條署に引致されたる兵庫縣明石町生れ大川松太郎（三二）は取調の結果に依れば稀有の大賊にて强窃盜數百箇所金品數千圓に達し且つ同人は最も强姦を好み强窃盜の都度必ず强姦を爲すを常とせるも被害者は之を恥辱として屆出でざるを奇貨として今日迄此手段にて强姦したる婦女實に百五十餘人に及べりと▲歌舞伎座の連中が地方興行に出掛けし際新橋より同伴を乞ひし一女學生あり門司にて別れしが翌日又來りて妾は豫て熊本の某校長を慕ひ居りて遙々尋ね來りしに旅行中にて逢ふ能はざれば何卒此上は東京にお連れ下されよと只管賴めども何やら夫れも疑はしければ体よく拒みしに遂に海に入つて死せんと企てしかば之を留めて警察に引渡したり多分浮氣者の果てならんと云ふ▲京都中立賣の立花種吉（二一）は或る私生兒（三）を三十圓にて貰ひ受けたるに種吉夫婦は非常の剛惡非道の者にて生木を燻し少女の面を其の煙りの上に突出し兩眼及び鼻孔より血の出づる迄も燻べ立て又は五厘銅貨大の灸を据えて遂に絶息せしめ醫師の來診にて漸く一命を取留めたり此事遂に其筋の耳に入つてお繩を頂戴

□新川柳（投句歡迎）

女客一服吸ッちや灰をかけ　子城
獨者伏せたら伏たまんまなり　同
女客尻を蒲團の隅へ乘せ　同
お話が途切れて冷茶グッと吞み　蘆笛
客の來ぬ間をお飯櫃く夏座敷　同
其の見合のろんな顏を想像し　醜面子
小間物屋へ入る智惠を下女につけ　同
高德は石で小柄を直して居　氣妙庵

特別廣告

●廣告
本役所ハ加藤洋行西隣二階建家屋へ移轉ス
牛莊居留民團役所

牛莊郵便局爲替貯金金銀受拂相場　自十月十三日至十月十九日
一軍票又ハ圓銀壹圓付ニ　本邦通貨金壹圓〇壹錢八厘
電話問合ヲ謝絶ス

廣告

廣告主へ御明の節は滿洲日報にて見し旨御申添被下度

營口出帆廣告

日本郵船會社瀛船出帆

●酒田丸 十五日未明出帆大連門司神戸横濱行 御乘客は前晩六時迄に御乘込相成度候

●竹島丸 十八日午前六時出帆大沽芝罘門司神戸行 御乘客は前晩六時迄に御乘込相成度候

●營口丸 廿四日午前大沽芝罘長崎門司神戸行 御乘客は全日午前迄に御乘込相成度候

（乘船切符發賣ハ出帆前三時間迄 未明出港ノ分ハ前日午後五時迄）

營口代理店 旗昌洋行（電話二六番）

瀛船營口出帆

摩耶山丸（十七日入港豫定）

賴朝丸（十八日入港豫定）

音羽丸（十九日入港豫定）

御代丸 十月十八日入港豫定

千珠丸 二十日入港

松茂洋行 電話（五二、五七）

瀛船出帆廣告

●長柄丸（營口天津間定期）

●萬成源丸 十三日入港

代理店 東和公司（電話四一〇番）

大連出帆廣告

日本郵船會社瀛船出帆

●薩摩丸 十六日正午長崎行

●酒田丸 廿七日正午門司神戸四日市横濱行

大棧橋より發船可致候

日本郵船株式會社大連出張所（電話貳壹〇番）

大阪商船會社瀛船出帆

●大義丸 十九日正午門司神戸大阪行

●開城丸 十五日門司神戸大阪行

●鐵嶺丸 二十二日正午門司神戸大阪行

大棧橋より發船可致候

大阪商船株式會社大連出張所（電話貳貳零番）

松茂洋行瀛船部出帆

●賴朝丸 十五日午後四時營口行

●音羽丸 十八日午後四時營口行

▲乘船切符は吉野町大山通り角〇ト運送店にて發賣可致候

大連市監部通り二丁目（電話二五九番）

河邊商店大連出張所松茂洋行

資本金貳千四百萬圓
積立金壹千五百零五萬圓

本店 支店 出張所

横濱 神戸 東京 長崎 大阪 倫敦
里昂 紐育 桑港 布哇 孟買 香港
上海 漢口 天津 北京 大連 旅順
奉天 遼陽 芝罘 鐵嶺 安東縣 長春
（寛城子）

電話十番（支配人室）（百八番事務室）

横濱正金銀行牛莊支店

正隆銀行

總經理人 深水十八

營口元神廟街二八六

電話（支配人室三四一 事務室二一〇）

隆記洋行

西營口老爺閣東小紅樓西南側

西分店 電話 四二

●本店 東京市日本橋區駿河町壹番地

●本店及出張所所在地

倫敦、漢堡、紐育、桑港、孟買、瓜哇、新嘉坡、蘭貢、甲谷他、磐谷、馬尼剌、シドニー、香港、厦門、福洲、汕頭、臺北、臺南、廣東、青島、上海、漢口、芝罘、京城、仁川、安東縣、北京、天津、牛莊、奉天、鉄嶺、寛城子、及内地各要所

三井物產合名會社大連出張所

大連山縣通百三十一番地 電話番號（四百六十番 百七十五番）

營業科目

販賣部 大豆、豆粕、棉糸布、木材、石炭、セメント、煉瓦、麻袋、麥粉、砂糖、亞鉛板、諸器機、各種金物、建築材料、其他內外國製品及原料販賣

倉庫部 當倉庫預證券（火災保險ヲ付シタルモノ）を所持せらるゝ方は當地正金銀行にて金融に應ぜらるべき便宜あり

保險部 明治火災 東京海上 保險會社大連代理店

強報 廉價

大連 滿洲煉化製造所工場

滿洲煉化製造販賣部（電話四三八）

大連市羽前町

眞正大島紬

一元祖薩摩大島直仕入

一見本御一覽ノ上縞柄等ハ速ニ新製取寄可仕候

一特約販賣御希望者モ御座候ハヾ御相談可仕候

現品並ニ見本三百餘種

大連市信濃町大通

織元出張販賣所

米穀酒類食料品卸商

全 江口公司

I.W.HARPER WHISKEY.

世界第一

ハーパー ウイスキー

滿洲一手販賣

TAKU & CO.

澤龜釀造發賣元

宅合名會社大連支店

大山通二丁目（電話二四〇番）

純良醫藥 工業藥品 著名賣藥 醫料器械

卸小賣

營口永世街

東瀛大藥房

電話一四八番 振替貯金七〇一番

藥劑士 中馬龍造 中馬藥局

分店（營口新市街本町一丁目）（營口永世街（通順泰東））

品物ノ富豐ト價格ノ低廉ナルハ弊店ノ特色ニシテ既ニ江湖ノ信任セラルヽ所ニ御座候

時計眼鏡寶石類 貴金屬美術品商

萬松號（電三六八）

支那松 大角及尺角 貳拾壹尺

全 二寸板一寸板 貳拾壹尺

全 製材角及板類 貳拾壹尺

二道溝渡 一才 銀票 八錢五厘

鉄嶺渡 一才 全 拾壹錢

奉天渡 一才 全 拾壹錢五厘

右の外御望に應じ製材御調辨可仕候也

北辰公司支所

公主嶺

寛城子北門外 全出張所

土木建築請負

煉瓦石、石灰、石材及び各種建築材料

各出張所所在地

●大連 ●長春 ●鐵嶺 ●湯崗 ●張臺子 ●千金寨 ●郭家店 ●公主嶺 ●奉天 ●遼陽

營口 飯塚工程局（電話一六五）

冬物荷揃

帽子 毛布團 毛布 モヘル シャツ 沓下 手袋 窓掛 机掛

營口三友洋行 電一七四

一般患者ノ診療ニ應ズ（性診入院隨意）

院長醫學士 松井甚四郎

新市街寶來街

營口同仁醫院

電話番號（一七八番事務室 一七一番病室）

營業品目

●白米 ●硫黃 ●木炭 ●石炭 ●食料品 ●雜貨

委托販賣

大連奥町

三山縣大連支店

發信略語（二）「電話二二七」

森病院

營口永世街（電話一五五）

內外科產婦人科齒科（入院隨時）

院長 森 矯

新荷廣告

○○大塊石炭及無煙炭 ○○亞鉛板及洋釘 ○○木炭 ○○セメント ○○日本白米 ○○滑石灰

右各種は弊行屋船音羽丸にて今回到着廉價販賣致候殊に無煙炭は火力强大普通石炭の參倍余の耐久力を有し室內を汚染せず煙筒掃除の必要なし至極經濟的に候市內は御注文次第多少に不拘配達可致

材木商 營口 喜久洋行（電話三一四）

鐵嶺 高砂ホテル

英國ゴム長靴 ゴム底運動靴小兒用ジカバキ 防水運動靴（色ハ黑及白）

獨逸國製黑革用黑クリーム

近來此の摸造品を販賣するものあり登錄商標櫻印に御注意を乞ふ

登錄商標 內田

●正寸法用書改第八版定價表郵分貳錢送附あらば進呈す

東京市芝區伏見町 內田直二商店（電話新橋壹五五壹番）

會席御料理 鐵嶺西門外 醉花園

會席御料理 御旅館 彌生

新調の玉突臺及將棋盤等備付あり

彌生俱樂部 鐵嶺西門外

卸 綿商

小袖綿 ふとん綿 中入綿 まゝ綿 たしめん

大連市伊勢町六十七

土井商店

和洋諸紙卸商

大連市伊勢町四二号地

渡邊大連支店

高等旅館 松華ホテル 鐵嶺西門外火神廟

●遼東病院

▲診察の上入院隨意

▲入院料 自金壹圓五拾錢 至金五圓

旅順八島町貳番地（郵便局隣）

院長 今村春逸

旅館專業 白井旅館

奉天日本町（十間房中程路北）

頭彩壹萬圓

第二十四次 大連彩票賣出

開彩十月二十六日

裕和盛（電話八壹）

機械製煉瓦石發賣

弊製造所義兼而「コルニシユ」式素地型成機械並に嶄新なる素地乾燥室建設中の所去月下旬竣工本月一日より全機械力に依り製造室內の乾燥に着手仕候所豫期に異ならず製出の煉瓦石は形狀方正表面滑澤にして裝飾用として頗る高尙優美品質緻密耐壓力强靭吸水量僅少に候故土木建築用として適品と確信仕候得共尙實物御一覽の上御高評を相願度先は右御披露迄

營口牛家屯 營口煉瓦製造所（電話二四二）

販賣所 營口元神廟街 泰東公司（電話一三五）

御料理 觀音樓 旅順三笠町

旅館 大和館

永世街第三十四號（電話壹壹番）

店主 前田九一郎

土木建築業 並 煉瓦石灰販賣

營口新市街（電話四四）

加州組

專業旅館 東京樓

營口乘車乘船最好の位置（電話一八七）

團隊四人樣以上は規定宿料外格安勉強割引可仕候高等御下宿は面議廉價御賄可申上候

石油使用 明廚爐 無煙無臭

便利重寶の一例

手間少なき人自炊者に最適

來客ありたるとき 直樣マッチにて點火し置けば挨拶の了らざる內に湯は沸騰し直に茶を呈する事を得又客と談話しつゝある間に賓炊をなして餘裕あり頗る便利只實驗の外なし

人ありたるとき 夜中に湯茶を求められ或は牛乳を溫むる等にマッチ一本にて辨ずる故少しもいだつことなし

●詳細書は御申越次第進呈

一名 下女イラズ

夏季に涼く冬季に暖到る地に適すべし

製造販賣元 大阪本町通渡邊筋角 島田支店

特約店 營口元神廟街（電話東一三三六番） 小宮山洋行

物價

營口爲替相場（十月十四日）

正金銀行一覺沸（百圓ニ付）

內地	九九圓
天津	一〇三圓四分ノ三
上海	七一兩
芝罘	一〇四圓四分ノ一
銀塊相場	廿九片十六分三

同通貨相場

正隆銀行

	受	拂
銀貨（百）軍票	九九、九〇	[illegible]
金貨（百）軍票	一〇一、三〇	一〇一、[illegible]
「ルーブル」一ト軍票	一〇四、一〇	一〇五、[illegible]
墨銀ト軍票	一〇四、八〇	一〇六、[illegible]

▲營口物價▼

●大豆豆粕

▲豆粕	一兩七[illegible]
▲新豆	九兩五[illegible]

（新市街見本洋行）

美濃紙大印（[illegible]）	[illegible]
仝松印	[illegible]
仝竹印	[illegible]
仝梅印	[illegible]
改良半紙大印	[illegible]
仝金印	[illegible]
仝銀印	[illegible]
仝福印	[illegible]
仝生漉半紙上	[illegible]
仝並	[illegible]
六寸半切大印	[illegible]
仝金印	[illegible]
仝福印	[illegible]
大七九紙生漉松印	[illegible]
七九仝竹印	[illegible]
仝梅印	[illegible]
塵紙生漉上	[illegible]
仝中	[illegible]
障子紙（一束三百六十枚）	[illegible]
越前奉書（一束百八十枚）	一〇、〇〇
中ノ內（仝）	[illegible]
西ノ內（仝）	[illegible]
仙花（一束六百枚）	[illegible]
美濃罫紙上（一千枚）	[illegible]
全半罫紙 壹〆（仝）	[illegible]
仝半紙罫紙上	[illegible]
仝並	[illegible]
美濃表紙（百枚）	[illegible]
半紙表紙（仝）	[illegible]
扇の子（十斤に付）	[illegible]
圖引用紙（百枚に付）	[illegible]

●支那向窓張紙

二尺角一〆千五百廿枚	[illegible]
一尺八寸角仝	[illegible]
一尺六寸角仝	[illegible]
包紙 百枚	[illegible]
スサ紙 十貫目に付	[illegible]
油紙 一枚に付	[illegible]

●洋紙類

模造紙 百斤に付	[illegible]
西六判鳳印	[illegible]
菊判	[illegible]
赤濃	[illegible]

●保管料（松武洋行）

一ケ月定	
米大豆及雜穀 一担	[illegible]
豆粕 一枚	[illegible]
麥粉 五十磅一袋	[illegible]
綿花（支那大）百八十斤內外 一俵	[illegible]
仝（仝中）百廿七斤內外 仝	[illegible]
仝（仝小）六十斤內外 仝	[illegible]
綿糸（亞米利加又ハ孟買）一立方呎	[illegible]
孟買產壓迫梱 一立方呎	[illegible]
綿糸（本四〇〇磅）日支 一俵	[illegible]
綿織毛織麻織衣類全 一立方呎	[illegible]
清酒 四斗樽 一樽	[illegible]
仝 二斗樽全	[illegible]
洋酒類 箱入 一箱	[illegible]
仝 樽打入 一樽	[illegible]
醬油酢類 二斗樽	[illegible]
砂糖 一斗樽全	[illegible]
糖 一五〇磅 一袋	[illegible]
昆布 大東 一束	[illegible]
刻昆布 一箱	[illegible]
海參干鮑鯣鱈明骨 一担	[illegible]
魚類漬物 四斗樽 一樽	[illegible]
野菜 二斗樽全	[illegible]
全 廿五枚全	[illegible]
△アンペラ 一卷	[illegible]
燐寸 五〇〇枚 一箱	[illegible]
安全燐寸 全	[illegible]
硫黃 全	[illegible]
煙草 紙卷 大全	[illegible]
仝 小全	[illegible]
炭 一噸	[illegible]
石炭 一噸	[illegible]
骨歌 一担	[illegible]
硝子 一立方呎	[illegible]
陶器類 一箱	[illegible]
亞鉛板 一捆	[illegible]
鐵板 一箱	[illegible]
トタン板波形 一束	[illegible]
鐵管類 一捆	[illegible]
百十二磅 一箱	[illegible]
小桶 一桶	[illegible]
大桶 一全	[illegible]
十本入 一箱	[illegible]

（一）右品種の頭部に△印ある分は輸入手… 野積とす（二）保管料は本表の倍額とす… 十五日間は保管料を要せず… 一ケ月分申受く（四）高價の品の保管料は毎月從價千分の五ト又は… （五）此表に規定なき物品の保管料は其の都度之を定む… 受託物の内容並に狀態に對し當公司は其責に任ぜず… 其他の暴力不可抗… 及物品の性質若くは… 損害に對し受託物の賠償の責に任ぜず

清商綿布綿糸綿花相場（〇印は日本品）

（一梱ニ付）

十六番手藍印綿	一〇、二五
十六番手扇全	[illegible]
十丈老船橋全	[illegible]
彩船全	[illegible]
人担茶全	[illegible]
紅入竹全	[illegible]
大丈金盤塔全	[illegible]
仝	[illegible]

（一匹ニ付）

十丈大卜英石炭布	[illegible]
〇仝一流二甲全	[illegible]
〇仝三流二甲全	[illegible]
仝一流人馬全	[illegible]
仝二號人馬全	[illegible]
仝龍球全	[illegible]
十五龍印打連布	[illegible]
仝老雙毛全	[illegible]
仝大卜英全	[illegible]
仝七熊星全	[illegible]
八丈豐裕坎布	[illegible]

（百尺ニ付）

司興隆大尺布	[illegible]
永予全	[illegible]
宋福泉全	[illegible]
黄大和全	[illegible]
公大馬全	[illegible]
和順長全	[illegible]

（二四ニ付）

大裕清水希	[illegible]
盆成全	[illegible]

（百斤ニ付）

九華棉花	[illegible]
翠錦全	[illegible]
陳元生全	[illegible]
東京全	[illegible]
西豐全	[illegible]
鴻大全	[illegible]
宋縫記全	[illegible]

（新市街加藤洋行調）

英國製中折帽	[illegible]
黑山高帽子	[illegible]
鳥打帽子	[illegible]
ラクダ毛防寒帽	[illegible]
ラッコ毛皮帽	[illegible]
スコッチ靴下 打	[illegible]
仝長靴下 全	[illegible]
カシメン手袋 全	[illegible]
スコッチ手袋 全	[illegible]
皮手袋 全	[illegible]
獨乙製毛メリヤスト下組	[illegible]
仝ジヤケツ 全	[illegible]

▼遼陽物價▲

舶來毛メリヤス全	[illegible]
白毛布 二枚續	[illegible]
色全 全	[illegible]
白米 四斗俵	[illegible]
味噌 一貫目	[illegible]
砂糖 一斤	[illegible]
醬油 一斗	[illegible]
酒 一升	[illegible]
石油 一罐	[illegible]
魚類罐詰 一ダース	[illegible]
野菜全 全	[illegible]
牛肉全 全	[illegible]
バタ 一ポンド	[illegible]
ソース 半ダース	[illegible]

●菓子類

ビスケット 一磅	[illegible]
ドロップス罐入全	[illegible]
スター罐入全	[illegible]
ビール 一壜	[illegible]
壜詰酒類 全	[illegible]
エジプト煙草 百本	[illegible]
メリケン帽子 一個	[illegible]
鳥打 全	[illegible]
カラー 全	[illegible]
ワイシヤツ 全	[illegible]
フランネルシヤツ全	[illegible]
木綿メリヤスシヤツ上下	[illegible]
毛全 全	[illegible]
靴下 一打	[illegible]
毛糸 一貫目	[illegible]
下駄表付 一足	[illegible]
全桐直パキ 全	[illegible]
全山桐全 全	[illegible]
半紙 壹〆	[illegible]
硯箱 壹個	[illegible]
筆 壹對	[illegible]
墨 壹挺	[illegible]
ツボンツリ 一	[illegible]
算盤 一	[illegible]
狀袋 百枚	[illegible]
卷紙 一本	[illegible]
チリ紙 一〆	[illegible]
ネキメイ 一	[illegible]
ネキメイピン 一	[illegible]
石鹼 舶來一	[illegible]
全 內國製一	[illegible]
茶器之揃 一組	[illegible]
全九谷燒 全	[illegible]
急須 一	[illegible]
土瓶 一	[illegible]
小皿 百	[illegible]
中皿 全	[illegible]
三ツ鉢 壹組	[illegible]
水差 一	[illegible]
飯茶碗 一	[illegible]
盃 百	[illegible]
醋壜 百	[illegible]
茶正喜撰 一斤	[illegible]
全川柳 全	[illegible]
手帳 一冊	[illegible]
通帳 全	[illegible]
簿記帳 全	[illegible]
インキ黑 一磅	[illegible]
全赤 半	[illegible]
石鹼函 一	[illegible]
箸箱 一	[illegible]
ハンカチーフ木綿 一打	[illegible]
全麻 全	[illegible]
全絹 全	[illegible]
人形 一	[illegible]
足袋黑 一	[illegible]
全白 一	[illegible]
カタン糸 一打	[illegible]
香水 一	[illegible]
壁紙 內地製 百枚	[illegible]
全 獨乙製 一卷	[illegible]
行李 竹 一	[illegible]
全柳 一	[illegible]

●精白米（西街惠榮洋行）（一石ニ付）

特等（◆赤印）	[illegible]
特等（◆紫印）	[illegible]
壹等（◆青印）	[illegible]

●罐詰類

鮭（一斤）四ダース	[illegible]
鮭（半斤）八ダース	[illegible]
鱒（一斤）四ダース	[illegible]
鰯（半斤）八ダース	[illegible]

●化粧品

御園四季花 壹ダース 大	[illegible]
仝 小	[illegible]
御園の雪 全	[illegible]
御園とき水 全	[illegible]
御園齒磨 全	[illegible]
全 壜入 全	[illegible]
チエリーオイル全 大	[illegible]
仝 中	[illegible]
仝 小	[illegible]
チエリーポマード全	[illegible]

（向井洋行）金票

清酒金露 四斗	[illegible]
四升	[illegible]
札幌ビール 四ダース函	[illegible]
醬油上印 壹斗	[illegible]
全梅印 全	[illegible]
全櫻印 全	[illegible]
全福印 全	[illegible]
東京澤庵漬 十二貫	[illegible]
娘印ビスケット 一磅	[illegible]

▼大連物價▲

●洋酒 大山通二丁目（宅合名會社大連支店）

澤龜 大 四斗五升 一六、八〇〇
全 牛 二斗 八、五〇〇
全 瓶詰 四打入 一〇、五〇〇
札幌麥酒 全 [illegible]
麒麟麥酒 全 [illegible]
朝日麥酒 全 [illegible]
獅印スペーシャル 全 [illegible]
蜂印葡萄酒 全 [illegible]
孔雀平野水 全 [illegible]
ジンジャーエール 全 [illegible]
三ツ矢印サイダー 全 [illegible]
洋酒 シャンペン（一打）[illegible]
ウヰスキー [illegible]
ブランデー [illegible]
リキユール [illegible]
白葡萄 [illegible]
赤葡萄 [illegible]
わし印ミルク 四打箱 [illegible]

●世帶道具（信濃町増井商會）

十匹肉バケツ 壹打 [illegible]
（以下品目・價格 [illegible]）

●洋鐵類（三重洋行支店）十貫目

スイッル丸鐵 [illegible]
全 角鐵 [illegible]
全 平鐵 [illegible]
丸、角、平、鋼鐵 [illegible]

●セメント類

淺野セメント [illegible]
大阪 全 [illegible]
外國 全 [illegible]
火山灰 [illegible]
胡粉 一箱入 [illegible]

●ペンキ及苧莇

[illegible]

●洋釘類（壹百斤）

四分ノ三インチ [illegible]
（以下 [illegible]）

●土丹引板類

[illegible]

▼奉天物價▲（小西邊門外）

[illegible]

●木材（小西邊門外東亞洋行）金票

[illegible]

●銀市（十月十二日）

[illegible]

●穀物（毎斗）吊

[illegible]

▼鐵嶺物價▲

●穀類

[illegible]

●味噌

[illegible]

●漬物

[illegible]

●醬油

[illegible]

●酢

[illegible]

●乾物

[illegible]

●茶

[illegible]

●洋麵

[illegible]

●勞働者賃銀（一般）

日本人 一日勞銀 二、五〇
支那人 一日勞銀 [illegible] 八〇

●麥酒及洋酒

[illegible]

●飲料水

[illegible]

●罐詰類

[illegible]

●酒

[illegible]

▼長春物價▲

[illegible]